SEKIZENKAN press release

プレスリリース　報道機関各位

映画『千と千尋の神隠し』モデル宿の一つとして取り上げられたワケは…？

歴史をひも解いたら…積善館と千と千尋がつながった！「館内歴史ツアー」好評開催中です！

群馬県吾妻郡中之条町四万温泉「積善館」では、今年１月より、316年の積善館の館内をご案内する歴史ツアーを毎週水・日曜日に開催しております。当館の歴史を始め、建築や四万温泉の成り立ちについて当館亭主が説明するこの歴史ツアーは、おかげさまで多くのお客様にご好評をいただいてまいりました。

「積善館」は築300年を超える日本最古の湯宿建築をもつ温泉旅館。一部は群馬県の重要文化財に、また、大正ロマネスク様式を用いた「元禄の湯」（昭和5年建築）と、昭和の名工が手掛けた「山荘」は、国の登録文化財に指定されております。

本プレスリリースでは、当館が映画『千と千尋の神隠し』モデル宿の一つとして取り上げられた理由や、また温泉の起こりについてのお話などをご紹介いたします。当館亭主が館内ツアーの中でも説明させていただく内容ともなっていますので、ぜひお楽しみください。

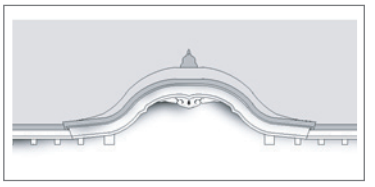
元禄時代から名湯として愛され続けてきた温泉旅館のもう一つの魅力を感じていただければ幸いです。

1. 『風呂』のルーツは蒸し湯にあった

「元禄の湯」内の蒸し湯

当館の「元禄の湯」の奥にある、蒸気で入浴する２つの「蒸し湯」。
１畳半程度のスペースに１人用のタイルのベッドが備え付けられており、
ここに横たわると、天井から出てくる温泉の蒸気を身体に浴びることができます。
実は、この「蒸し湯」こそが「風呂」の原点。
昔は一か所に熱い湯をためることは物理的に困難な時代だったため
岩穴などに火を炊き、温まったところに水をかけた蒸気で入浴したと伝えられます。
風呂の語源は岩室などの「室（ムロ）」だという説もあります。

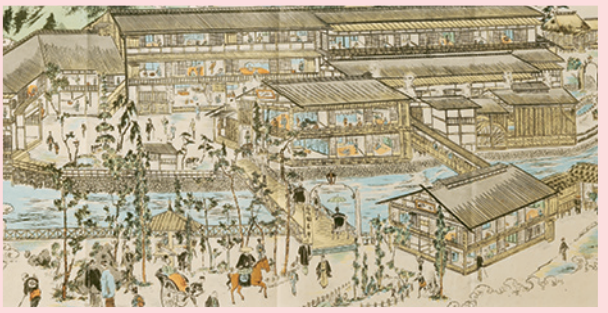
2. 建築にみる風呂の変遷



唐破風の屋根

中央部が曲線を描き、両端は跳ね上がる形状の「唐破風（からはふ）」の屋根は、寺社などの建築によく用いられていましたが、銭湯の建物の中にも多く見られます。
その理由として、「ここから先は別世界（極楽浄土）」と入浴を結びつけたという説が一点。
もう一つは、一般家庭に浴室も銭湯もなかった時代に、寺院が庶民に風呂を開放していたこと（「施浴」と呼ばれ宗教的な意味合いが強かった）が挙げられます。
施浴により入浴の楽しみを知った庶民の間では、銭湯の走りと言われる「湯屋」が建てられます。
「唐破風」の屋根はやがてお寺と銭湯のシンボルとなりました。

3. 『積善館』と重なる昔のレジャーランドとしての『湯屋』



明治時代の積善館

映画『千と千尋の神隠し』には、「やおよろずの神様のレジャー施設」として描かれた唐破風の屋根の湯屋が登場します。
四万温泉は、古くは新潟から鎌倉まで直行する交通の要所であった、とも言われ、昔の版画にも残されているように、多くの湯治客でにぎわっていました。宮崎駿監督は、多くの人々でにぎわっていた人間の「湯屋」と、神様がリフレッシュするために集まる「湯屋」を積善館と結びつけたのです。
赤い橋を渡ると、そこは神様のレジャーランド・・・。
そんな映画のワンシーンに思いを馳せながら積善館前の赤い橋「慶雲橋」を渡ってみるのも興味深いかもしれません。

この件に関するお問い合わせは、積善館・黒澤までお願いいたします。
TEL(0279)-64-2101　FAX(0279-64-2369